



有家中だよりNo.11

令和8年 1月19日
南島原市立有家中学校
校長 本多洋二

令和8年、新しい年のスタート

いよいよ3学期がスタートしました。始業式では、次のとおり話しました。

（抜粋）

短い3学期ですが、次の学年へ繋ぐための大切なステップアップをするまとめの学期です。より充実したものにするために、有家中学校の3学期の合言葉、取組キーワードを「主体性・当事者意識」とします。

＜3学期取組キーワード＞

「主体性・当事者意識」

特に3学期は、内面を育てる3学期にしてほしい。内面が、行動として表れる3学期にしてほしい。

内面を育てるその土台に「感謝の気持ち」を置いてほしい。どんな些細なことにも感謝できる人は成長できる人、自分も周りも大切にできる人です。常に感謝の気持ちを忘れず、内面が行動に表れる人でいっぱいの温かい有家中学校にしましょう。共に頑張っていきましょう。

～発達障がいの子どもたち～(その1)

昨年度も紹介しましたが、確認の意味で、今年度も紹介します。

特に知的な遅れは感じられないのに、教師の指示に従えなかったり、落ち着きがなく、すぐに席を離れてしまったりする子どもがいます。また、集団生活を嫌がり、他の子どもとはどこか違う、変わっていると感じる子どもがいます。これらの子どもの中には、発達障がいと言われる子どもたちがいます。（右上に↗）

（↗左下から）文部科学省の調査によると、通常の学級に在籍する児童生徒で、発達障がいの可能性があり、学習面、生活面で著しい困難を示す児童生徒が8.8%の割合で存在している。という結果が出ました。

そこで、「障がい」をどう考えるかということを話します。

私は、老眼と乱視のため、近くがよく見えません。新聞等を見るとき、文字が二重に見え、ぼやけて見えます。そのため、老眼鏡を使っています。つまり、メガネがないと近くの文字等をハッキリ見ることができません。近くを見るということに関しては「障がい」があります。しかしながら、メガネを使うと障がいがなくなります。

同じように膝が悪くて、歩道橋を渡ることが困難な方がいらっしゃいます。これも障がいがあると言えます。しかしながら、横断歩道があれば障がいにならないと言うこともできるでしょう。

つまり、「障がい」というのは、社会環境との関係で表れたり無くなったりすることなのです。車いすを使わなければ移動が困難な人も、車いすという道具を使い、スロープ等が整備された通路を通ることができれば、移動に障がいはないと言えます。だから、その人が「障がいを持っている」のではなく、社会生活を営む上で「障がいがある」と考えるべきだと私は思います。学校も同様で、学校生活を営む上で、障がい（ハードル）がある子どもたちがいます。これらの子どもたちに適切な指導や必要な支援をすることが学校の大きな課題です。

決定！3学期学級委員

3学期は、1年間の中で最も短い学期ですが、1年のまとめの学期であり、次のステップへつながる大切な学期です。その大切な学期をリードし、学級をまとめの委員が決定しました。

学級委員は、次のとおりです。（敬省略）

	組	男子	女子
1年	1	内野 蒼太	本多 姫奈
	2	永石 光	小川 加倫
	3	荒木 瑛裕	本村 美侑希
2年	1	白石 煌明	田中 茉桜
	2	川村 旺士郎	川村 倖与
3年	1	石川 央侑	山口 咲姫
	2	中村 鳩佑	田出 杏莉

更生保護女性会からの寄贈、感謝！

南島原市の更生保護女性会の方から、有家中学校に登り旗と電波時計を寄贈していただきました。本校に無いものだったので、大変助かります。正面玄関と職員室前廊下に設置しています。

更生保護女性会からは、松島さんと金子さんが見えられました。



＜登り旗 11本と電波時計をいただきました＞

＜今後の予定＞

＜2月＞

- ・2日（月）～9日（月）・13日（金）
二者面談（1年生）
- ・6日（金）新入生入学説明会
14:00～（本校体育館）
- ・17日（火）公立高校一般選抜入試（1日目）
- ・18日（水）公立高校一般選抜入試（2日目）
- ・19日（木）学校支援会議
13:30～（本校会議室）
- ・27日（金）全校専門委員会

＜3月＞

- 3日（火）生徒集会
- 5日（木）公立高校一般選抜入試合格発表
- 10日（火）卒業証書授与式予行
- 11日（水）卒業証書授与式
- 12日（木）公立高校チャレンジ選抜入試
- 17日（火）公立高校チャレンジ選抜入試
合格発表
- 24日（火）令和7年度 修了式・離任式
- 25日（水）～学年末休業（春休み）



＜学年代表で3学期の抱負を述べる生徒＞
1年御厨さん、2年柳谷さん、3年中村さん



自分の考えや人の受け売りです。気軽に読みください。

使えば使うほど豊かになる「心」

空気や水、太陽の光など、いつも当たり前に存在しているものに対しては、それがどれほど大事なものでも、恩恵を感じる心はなかなか生まれてこないようです。

しかし、自分を支える様々な恩恵に気づくために、意識して目を向けるように心がけ、感謝することができれば、人は心が豊かになるのではないでしょうか。

使わないと衰えるのは筋力や体力だけではありません。考える、気づくといった心の働きにもトレーニングは必要です。自分を支える様々な恩恵に意識を向けていくと、見えにくい恩にも気づくようになり、感謝の心が湧いてくるのではないかでしょうか。そうすることが自らの心を豊かにすることに繋がります。3学期は、「内面が行動に表れる学期」と位置付けています。使えば使うほど豊かになる「心」。日々心を豊かに育んでいきたいものです。